

展覧会

★テーマ展示Ⅲ 『昔の暮らし展』

会期 7月27日(土)～10月13日(日)

今では使われなくなった身近な道具を通して、明治時代～昭和30年代の人々の暮らしを回顧します。また今回、展示にあわせて、夏休みに親子で昔の暮らしが体感できる企画も行います。この機会に、昔の暮らしにタイプトリップしてみませんか。

主な展示品

蓄音機、写真機、大正時代の足踏みミシン、箱膳、昔の日常食復元模型など



蓄音機

各種催し案内

★親子歴史体験講座

毎月第4土曜日に午前の部(10時～)と午後の部(14時～)の2回開催します。各月の講座内容は下記のとおりです。

開催日	講座内容	定員(1回)	料金(材料費)
7月27日(土)	粘土埴輪作り	50名	210円
8月24日(土)	カラー勾玉作り	50名	200円
9月28日(土)	火起こし	50名	無料

★映像でつづる歴史への旅(ミュージアムシアター)

7月28日(日) まんが日本史一大仏開眼
わざとちえー産業近代化のあゆみ

8月25日(日) 人物日本の歴史
—中臣鎌足と中兄皇子—
人物日本の歴史
—杉田玄白と本居宣長—
人物日本の歴史
—家康—

9月22日(日) 縄文時代/飛鳥と奈良の都

■料金 無料

■上映時間 11時～、14時～の2回

●編集後記

6月に入り、新聞・テレビはワールドカップ一色。余りサッカーに興味がない私も、世界のトップ・プレーヤの妙技や迫力にやや興奮ぎみです。(M.T)

★夏休みジュニア歴史講座

小中学生を対象に、勾玉作り・火起こし体験・資料館探索など、歴史にまつわる体験や学習を行います。

■実施日 8月7日(水)～9日(金)の3日間

■時間 13時30分～16時 ■定員 50名

■料金 無料

★資料館しごと体験

資料の整理や様々な催しの準備など、資料館の日常の業務を体験してもらいます。

開催日	参加対象	定員
8月20日(火)	小学生	20名
8月22日(木)	中学生	〃
8月23日(金)	高校生	〃

■料金 無料

■時間 9時30分～16時

*親子歴史体験講座は電話にて、また夏休みジュニア歴史講座・資料館しごと体験については往復ハガキにてお申し込みください。希望者多数の場合は、抽選となります。

資料館ニュース No.59

発行 2002.6.30

大分市歴史資料館

大分市大字国分960番地の1
〒870-0864 ☎(097)549-0880



聖フランシスコ ザビエル肖像

ブール著『聖ザビエル伝』

表紙の銅版画は、イエズス会のドミニク・ブール（1628—1702）が著した『聖ザビエル伝』（『聖ザビエルの生涯』とも）の扉絵として収められている聖フランシスコ・ザビエルの肖像画です。

スータンとよばれる聖職者が日常に着る黒の長衣の上にスペルベリティウムという短い白衣を重ね、首からはストラとよばれる帯状の布をかけ、右手には磔刑のキリスト像を持ち、左手人差し指を天上にかかげ、上目づかいに天空を仰ぎ見るザビエルの姿が描かれています。黒く短い髪に短い髪というお馴染み風貌に、頭上には聖人を示す光輪が描きこまれています。

本文では、ザビエルの少年時代から、イエズス会の創立、インドでの布教、マラッカ行きとそこでの日本人との出会い、日本での布教、中国への旅とその途中での死去、彼の起こした奇蹟などが記述されており、また彼の布教の道程を示した地図もおさめられています。

ブールのこの本は、19世紀までに数十回も版を重ねて出版され、英語やイタリア語、ポーランド語、アラビア語などにも翻訳されるなど、大変人気を博したといえます。本書は、1682年に出版された初版本で、特に貴重なものです。

ザビエルの東洋伝道の軌跡

年代	年齢	出来事
1540年3月	34歳	インド宣教の代役を頼まれ、リスボンへ向かう。
1541年4月 8月	35歳	インドを目指し、リスボンを出国。モザンビークに着く。
1542年2月 5月 9月	36歳	モザンビークを発つ。インドのゴアに到着。南インドを布教。
1545年9月	39歳	マレー半島のマラッカへ渡る。
1547年12月	41歳	マラッカで日本人アンジローと出会い、日本渡航を考える。
1549年4月 8月 9月	43歳	インドのゴアを出国。鹿児島上陸。領主島津貴久に会い、宣教の許可を得る。
1550年7月 9月 10月	44歳	ポルトガル船の平戸到着の知らせを受ける。平戸で領主松浦隆信に会い、宣教の許可を得る。京へ向かい、岩国から海路、堺につく。
1551年1月 3月 4月	45歳	京都へ入り、天皇に謁見を申し出たが叶えられず、わずか11日間滞在するにとどまる。堺から船で平戸に戻る。山口で領主大内義隆に会い、宣教の許可を得る。大友宗麟の招きで豊後府内へ行く。豊後へ出航し、インドへ向かう。
1552年2月 8月 11月	46歳	インドのゴアに到着。中国へ渡航。途中、広東沖の上川島に上陸。同島で高熱を発し、死去。



宣教するザビエル（ブール『聖ザビエル伝』より）



布教の足跡を示す地図（部分：ブール『聖ザビエル伝』より）

「変わりゆく景観—古絵図」より

会期 4月13日～5月26日

古絵図には、その描かれた時代の土地や家屋の状況、また時として当時の人々の暮らしまでもが描き出されています。本テーマ展示では、特に大分の中心部に焦点をあて、その景観の変遷を城絵図・村絵図・絵巻・地籍図などの様々な古絵図を通してご覧いただきました。

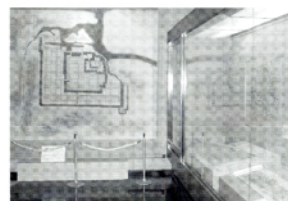
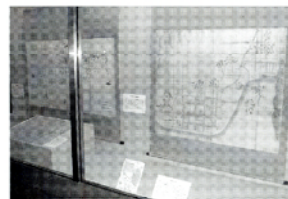
戦国時代の「府内」の様子を描いた「府内古図」、正保元年（1644）府内藩主日根野吉明が描かせ幕府へ提出した「豊後府内城之絵図」（模写）、府内藩主大給松平家の城下とその人々の暮らしを描いた「御城下絵図」、文化・文政期（1804～29）の杵築城下から府内城下までの別府湾岸の景観を描いた「杵築府内間山水図」、明治13、4年頃の「大分町図」、昭和15、6年頃の「戦災で消えた大分市中心部復元絵図」など、戦国時代から近代までを対象に描かれた古絵図20点余を展示し、凡そ350年間にわたる大分の歴史とその発展の有様についても併せてご覧いただきました。

ここでは、その展示品の中から、現在のなかへ川の旧門前村絵図について紹介してみたいと思います。この門前村の絵図には、「明治三年六月、鶴崎高田手永門前村江造酒場奉願候一付、同村廻等之絵図面」

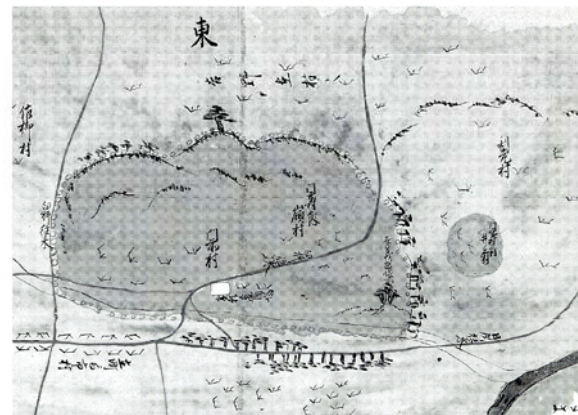
の外題が付けられています。この外題から、本図が明治3年（1870）の門前村造酒場建設の願いにともなって描かれた絵図であったことが分かります。当時、門前村は肥後細川藩の高田手永の支配下にあり、「山奥在」9ヶ村と呼ばれた村の一つとしてありました。恐らく、この村絵図は、願書と共に本藩、ないしは同藩の豊後領支配の拠点とされた鶴崎の「御茶屋」へ提出されたもの、またはその控と考えられます。

文化10年（1813）編纂の「高田風土記」によれば、門前村は、東に山をひかえて峰尾を限り白杵領の吉野村と境い、西を同領市村、北を同領佐柳村、南を同領利光村と接し、「全く白杵領に孕れ」た状況にあったと記されています。また、門前村の南に嶺村という枝村があり、隣村の利光村には「井ノ上」という嶺村の飛地があったことも記されています。

酒造場が願いのとおりに実際に建設されたかどうか定かではありませんが、本図は、こうした門前村の地理的状況や景観がよく描かれており、同時に、在町として知られた市村の町並みや、門前村の西に沿って走る日向街道の松並木などの周辺の状況もみてとれ、当時の戸次地域を知る上で貴重な絵図といえます。



展示風景



門前村絵図（部分）

ザビエルの東方伝道の道のりを表した地図



(25.6×35.6cm)

ブール『聖ザビエル伝』（1682年刊）におさめられた地図で、ザビエルのインドから日本布教までの道のりが表されている。図右上に描かれた日本には、ザビエルが歩んだ鹿児島・平戸・都・堺・山口・豊後などの地名が記され、本州の上には、北海道とみられる地形も一部描かれている。なお本図は、17世紀に活躍したフランスの地図作家サンソンによって作成されたものである。

平成13年度歴史資料館小・中・高校・団体利用状況について

平成13年度、1年間の小・中・高校・学校関係団体等の資料館利用状況がまとまりました。昨年度(平成12年度)と比較してみると学校数にして約30校、児童・生徒数にして約3250名の増加となりました。

	平成12年度		平成13年度		増減数	
	学校数	生徒数	学校数	生徒数	学校数	生徒数
幼小校	67	7463	87	9277	+20	+1814
中高校	8	779	14	1670	+6	+891
市内計	75	8242	101	10947	+26	+2705
市外計	18	430	21	964	+3	+534
総合計	93	8672	122	11911	+29	+3239

13年度、資料館利用増の要因として、従来の見学型の施設から見学+体験型施設への利用が小・中学校に広がっていったことが考えられます。学習内容においても3年生社会科の昔の暮らしの単元や6年生・中学生の歴史の導入部分の単元に見学と体験を組み込んだ資料館体験学習が活かされているようです。忙しい学校現場の状況の中で、「すこやか体験」や「総合的な学習の時間」の時間においても資料館の体験活動は、担当の先生との打ち合わせによって様々な活動の内容に広がりました。

更に、資料館利用増加の第2の要因として、新しい自主企画のスタートが挙げられます。「完全学校5日制」を見据えた土・日の活用で親子歴史体験講座や子ども会活動の勧誘など社会のニーズに対応した施設利用増加につながりました。見学に加えてビデオライブラリーの視聴サービスと資料館の活用の仕方が広がり、これからの資料館は、学校・親子・高齢者までが楽しく利用できる施設を目指して頑張ります。



やっと火がついた。ピース!

平成13年度幼・小・中・高等学校体験活動状況

市内校	幼小校	児童数	中高校	生徒数	学校数	生徒数
見学遠足	5	1215			5	1315
見学	11	2318	3	961	14	3279
体験活動	47	3451	4	173	51	3624
すこやか	20	2089	5	509	25	2598
総合学習	4	104	2	27	6	131
市内合計	87	9277	14	1670	101	10947
市外校	幼小校	児童数	中高校	生徒数	学校数	生徒数
見学遠足	2	160			2	160
見学	3	154			3	154
体験活動	13	475	3	175	16	650
市外合計	18	789	3	175	21	964
総合計	105	10066	17	1845	122	11911

〈子ども会体験活動〉

平成13年度土・日曜日を利用した子ども会活動に歴史資料館の体験活動を利用。

利用状況

子ども会数	子ども	大人	合計
9団体	240人	108人	348人

〈親子歴史体験講座〉

平成13年度より主に毎月第4土曜日①10時～②14時～の2回親子を中心とした歴史体験講座を実施。

■火起こし/明るさ体験/ビデオ/歴史探検隊

4・6・8・10・12・2月実施

■かっ石勾玉作り体験

5・7・9・11・1・3月実施

	子ども	大人	合計
参加数	685人	428人	1132人
参加者平均	57.1人/月	35.7人/月	94.3人/月

〈ビデオライブラリー〉

平成13年度より大分の歴史を紹介したビデオ(73本)の視聴サービスを実施。

	子ども	大人	合計
視聴者数	740人	1196人	1936人
視聴者平均	61.7人/月	99.7人/月	161.3人/月

平成14年度歴史資料館 歴史体験活動例について

平成14年度より「完全学校5日制」・「総合的な学習の時間」が本格的にスタートしました。歴史資料館では、学校の社会科見学・「すこやか体験活動」・「総合学習」での資料館体験学習の活用、親子や子供会活動の土・日曜日の活用と、資料館の体験活動の利用度が広がってきました。いろいろな活用ができる歴史資料館の体験活動事例を紹介します。

	活動内容	対象学年	体験可能人数	活動時間	材料費	
①	農機具体験	今と昔の説明と体験 唐箕回し・モミ搗き・俵持ち上げ	小学3年	50人×3回転 ローテーション	2～2.5時間	無料
	今と昔の道具クイズ	今の生活の道具と昔の道具をクイズでむすぶ生活体験				
	明るさ体験	火と明るさの歴史を体験/火打石の発火実験・行灯などへ点火				
②	火起こし体験	弓ぎり式の火起こし/みごと火がつけば火起こし認定証を贈呈	小1～中学生	80人同時体験 低学年は補助必要	40分	無料
③	勾玉作り体験	かっ石勾玉(色付-赤・青・緑・黄) 粘土勾玉(火起こしとセットで)	小6～中学生	72人同時体験	2時間	200円 実費
④	埴輪作り体験	踊る埴輪 又は円筒埴輪	小6～中学生	72人同時体験	2時間	210円
⑤	明るさ体験	火打石と火打ち金による発火実験	中学生	50人同時体験	40分	無料
⑥	ビデオ視聴	約100本のビデオの中から選べます	幼～中学生	80人同時視聴可能	(1本)12分～30分	無料
⑦	館内見学	目的・質問に応じて案内	小～中学生	50人同時見学	40～60分	無料

■すこやか体験活動例(～144人以内)

	(午前) 9:30～11:40		(午後) 12:40～14:40
Aグループ	勾玉(埴輪)作り体験	昼食	火起こし体験+明るさ体験+館内見学
Bグループ	火起こし体験+明るさ体験+館内見学		休憩

■すこやか体験活動例(145～240人以内)

火起こし体験	明るさ体験	ビデオ視聴	館内見学	4ローテーションで体験
--------	-------	-------	------	-------------

■子ども会体験活動(資料館主催事業以外の日は受け入れ可能です。夏休み・冬休み・春休みも可)



集中!勾玉作り



踊る埴輪と円筒埴輪